



2019年12月期 第3四半期決算説明資料

2019年11月13日

株式会社ツバキ・ナカシマ

(東証一部 6 4 6 4)



目次

1. 2019年12月期 第3四半期実績 P 2
2. 2019年12月期 業績予想の修正について P 1 1

「一球一心」



一つの球に一つの誠心、愛情をこめて鋼球を作り上げること。

「一精一誠」



誠は真心であり、精は精密・精神を意味する。仕事に真心を打ち込んで、魂のこもった精密で優れた製品を作り上げること。



1. 2019年12月期 第3四半期実績

業績トピックス



□ マクロ経済悪化の影響を受け、売上収益は前年同期比11.7%減の505億円となった

□ この厳しい環境を企業体質の一層の強化の機会と捉え、“Agility”(敏速)をモットーに”シナジー”の発現並びに“選択と集中”(保有資産及び事業の見直し)を強力に展開し下記の通りの利益となった

営業利益77億円(前年同期78億円)

税前利益71億円(同69億円)

当期利益50億円(同54億円)

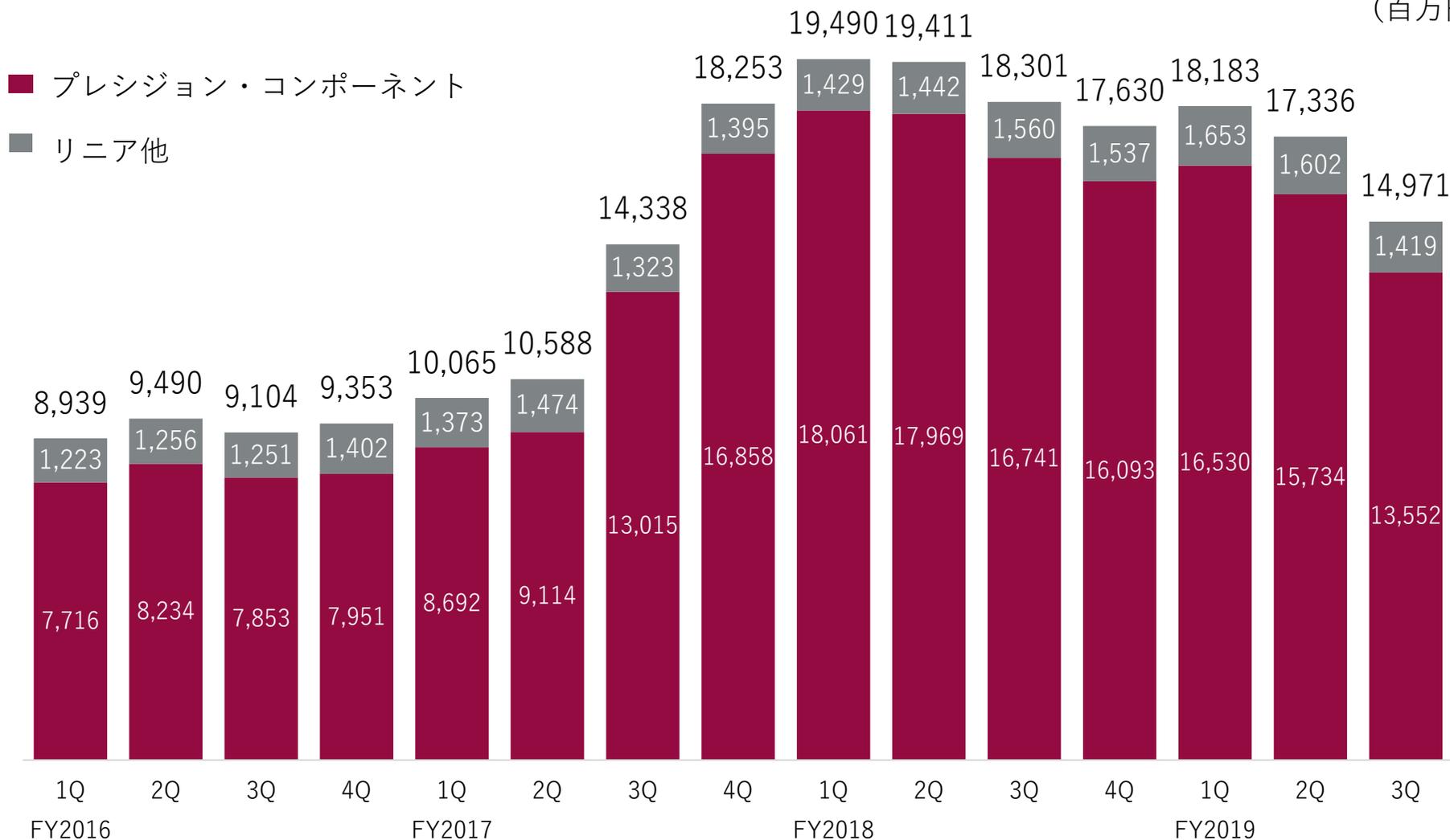
□ マクロ経済の不透明感は継続するものと思われるが、キャッシュマネージメントは順調に進捗しているため、年間配当81円/株(期末配当41円/株)は維持する予定



四半期 連結売上収益推移

グローバル経済の継続的悪化の影響により第3四半期の売上収益は減少

(百万円)





四半期 連結営業利益推移

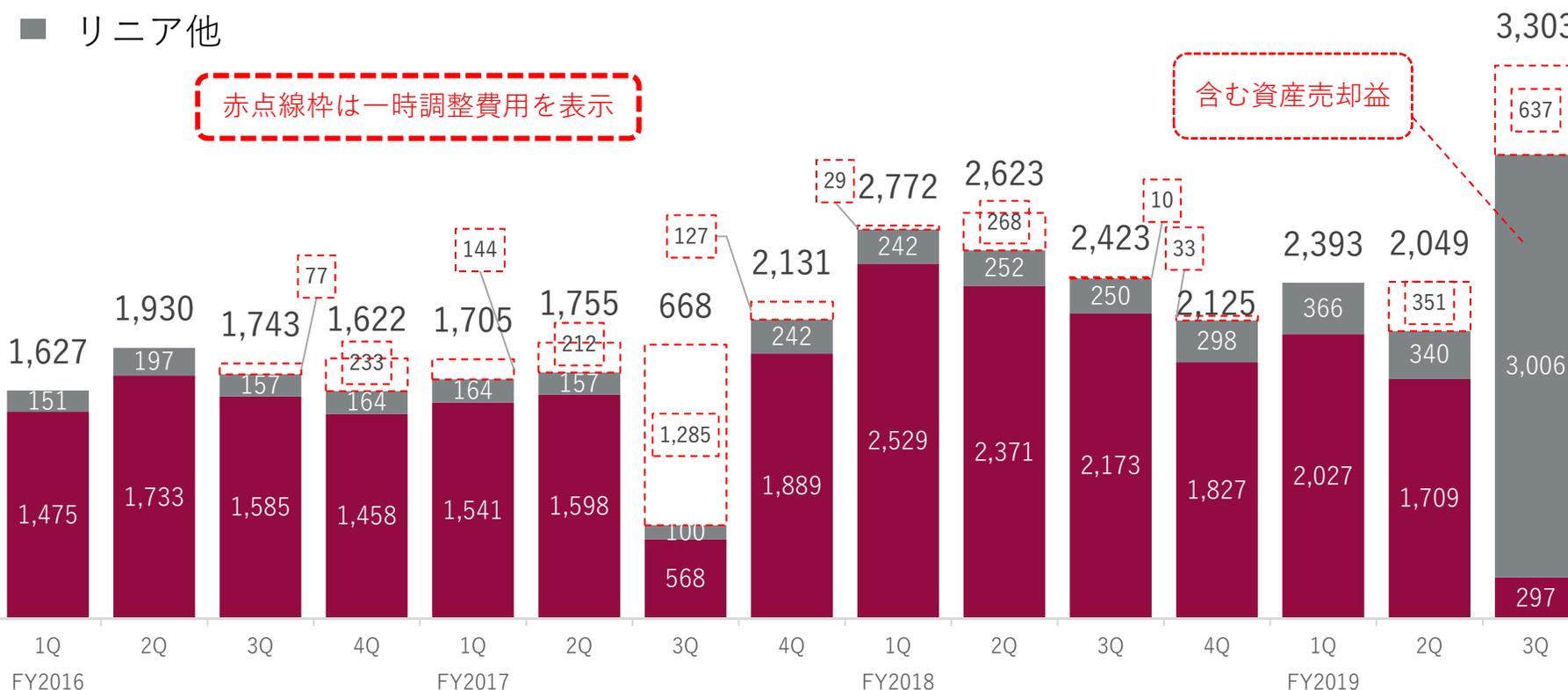
リストラ関連の一時費用を計上したが、それを上回る資産売却を行い営業利益の増加に寄与

(百万円)

- プレシジョン・コンポーネント
- リニア他

赤点線枠は一時調整費用を表示

含む資産売却益



※2019年2Q及び3Qにはローラー事業でのリストラ費用、2018年1-4Qには外部調査員会関連費用等を計上しております

FY2019 第3四半期連結業績

前年同期比



為替影響を除いた売上収益は対前年比8.3%減となったが、営業利益は0.9%増の77億円を達成 (百万円)

| | 2018 3Q累計 | 2019 3Q累計 | | | |
|----------|--------------|--------------|--------|-------------|-------------|
| | 実績 | 実績 | 為替影響 | 増減額 (※2) | 増減比 (※2) |
| 売上 | 57,202 | 50,490 | ▲1,980 | ▲4,732 | ▲8.3% |
| 営業利益 | 7,817 | 7,745 | ▲143 | 71 | 0.9% |
| 対売上(%) | 13.7% | 15.3% | — | — | — |
| EBITDA | 10,323 | 10,272 | ▲249 | 198 | 1.9% |
| 税前利益 | 6,938 | 7,071 | ▲168 | 301 | 4.3% |
| 当期利益(※1) | 5,441 | 5,033 | ▲120 | ▲288 | ▲5.3% |

(※1) “当期利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期利益”を記載しております。

(※2) “増減額”及び“増減比”は為替影響を除いております。

FY2019 第3四半期セグメント・地域別売上 前年同期比



リニア事業は営業活動を強力に展開し為替調整後の売上収益は6.3%増

(百万円)

| | FY2018 3Q累計 | FY2019 3Q累計 | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|--------|-------------|-------------|
| | 実績 | 実績 | 為替影響 | 増減額 (※1) | 増減比 (※1) |
| グループ連結 | 57,202 | 50,490 | ▲1,980 | ▲4,732 | ▲8.3% |
| プレジジョン・コン ポーネントセグメント | 52,771 | 45,816 | ▲1,946 | ▲5,009 | ▲9.5% |
| 日本 | 10,021 | 8,525 | — | ▲1,496 | ▲14.9% |
| 北米 | 11,414 | 10,493 | ▲45 | ▲876 | ▲7.7% |
| 欧州 | 21,005 | 17,490 | ▲1,341 | ▲2,174 | ▲10.4% |
| アジア | 10,331 | 9,308 | ▲561 | ▲462 | ▲4.5% |
| リニア他セグメント | 4,431 | 4,674 | ▲34 | 277 | 6.3% |

プレジジョン・コンポーネントセグメントは産業用精密ボール、精密ローラー、精密スタンピング部品等のセグメントです。
(※1) “増減額”及び“増減比”は為替影響を除いております。

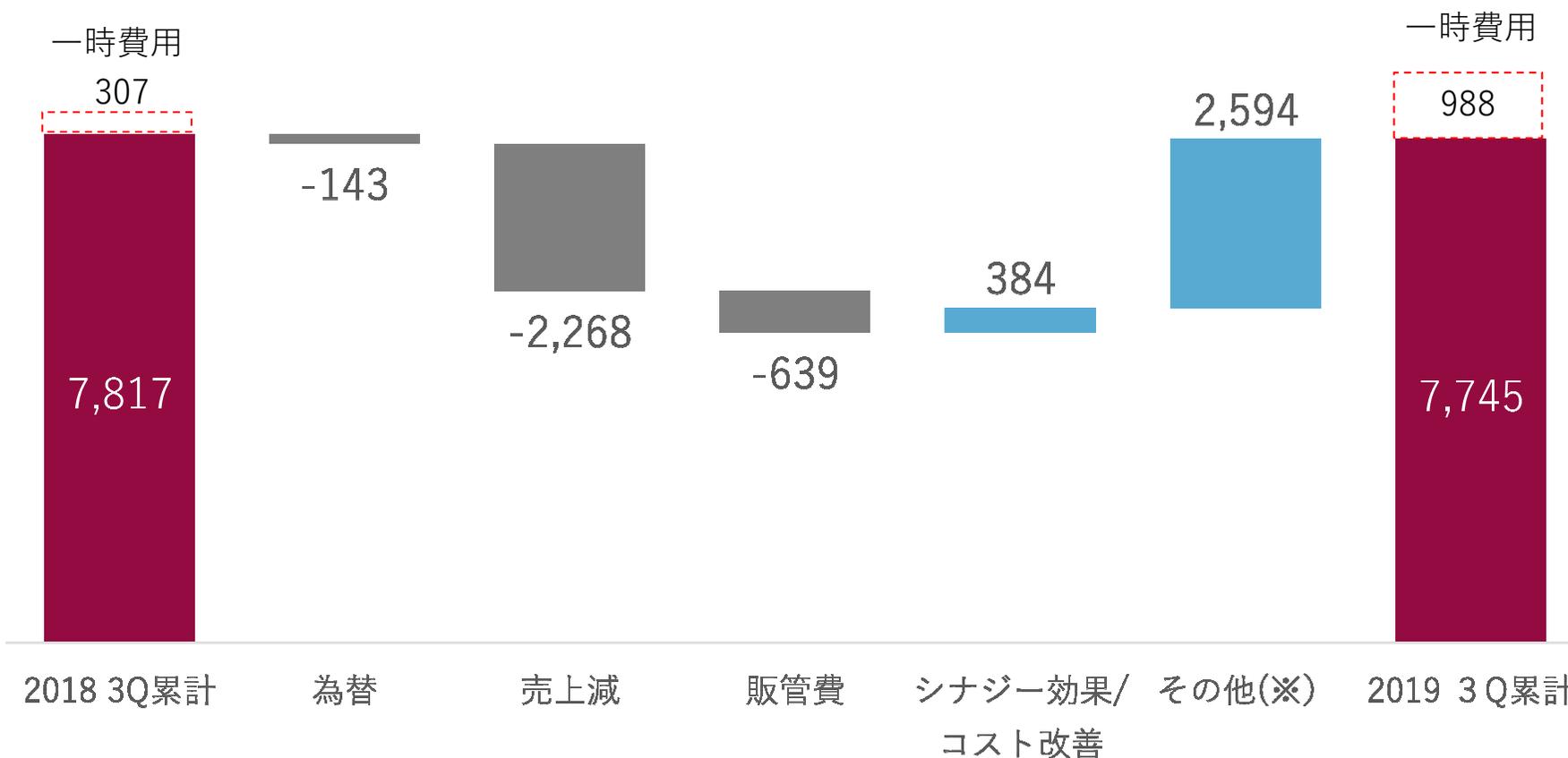
FY2019 第3四半期営業利益 増減要因

前年同期比



シナジー効果発現は予定を前倒して進捗している。同時に選択と集中による資産売却も実績をあげた

(百万円)



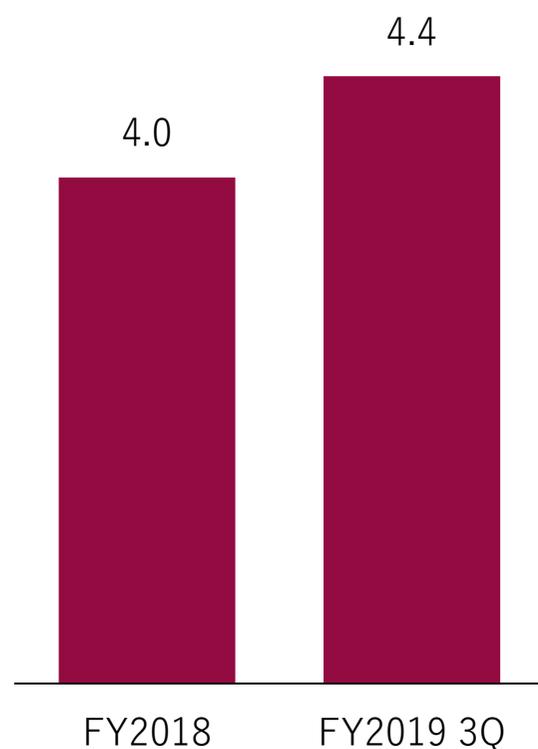
※一時費用として2018年3Q累計には“外部調査員会関連費用等”を2019年3Q累計には“リストラ関連費用”を計上しております
 ※“その他”には資産売却益他を含みます



BS/CFにおける業績

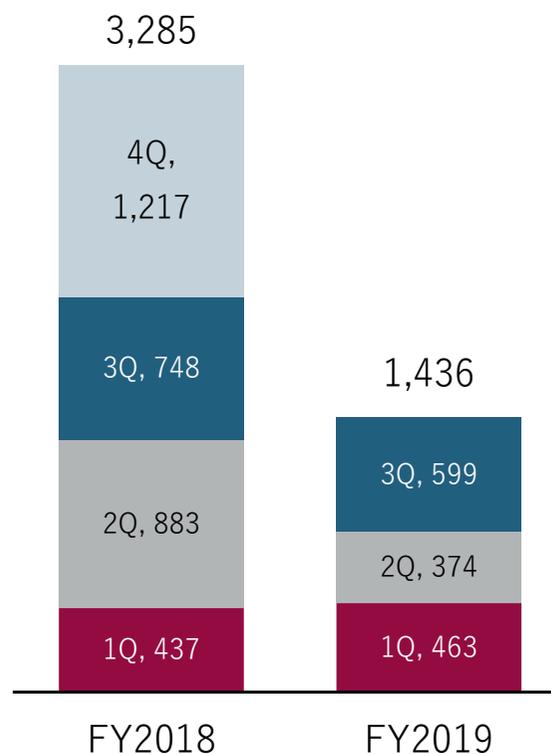
棚卸資産回転月数(月)

売上収益の減少により回転月数が悪化。さらなる改善活動を進める



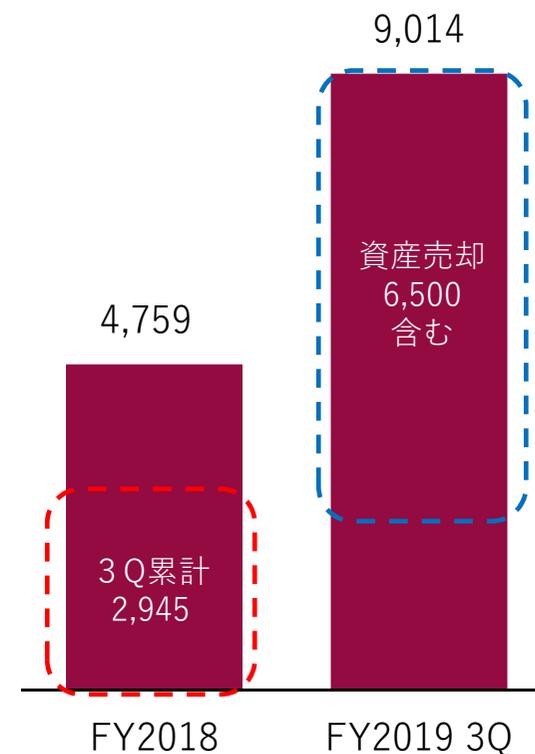
設備投資額(百万円)

IT及び品質・メンテナンス投資を優先に行うが、能力増強投資は後ろ倒しとする



フリーキャッシュフロー(百万円)

財務力の強化及び将来の成長を念頭にキャッシュマネジメントを強化

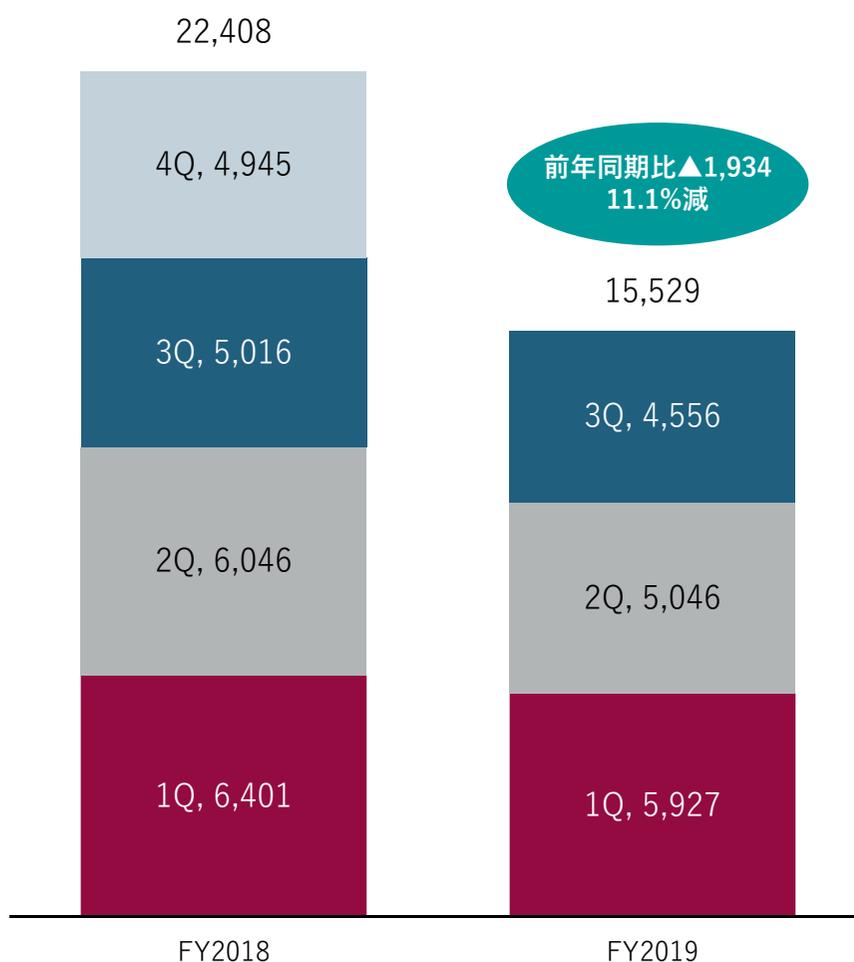


FY2019 第3四半期 販売戦略進捗

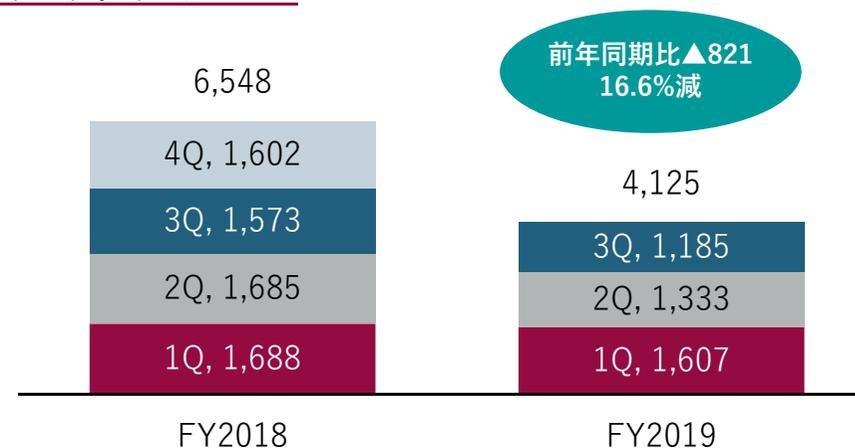


(百万円)

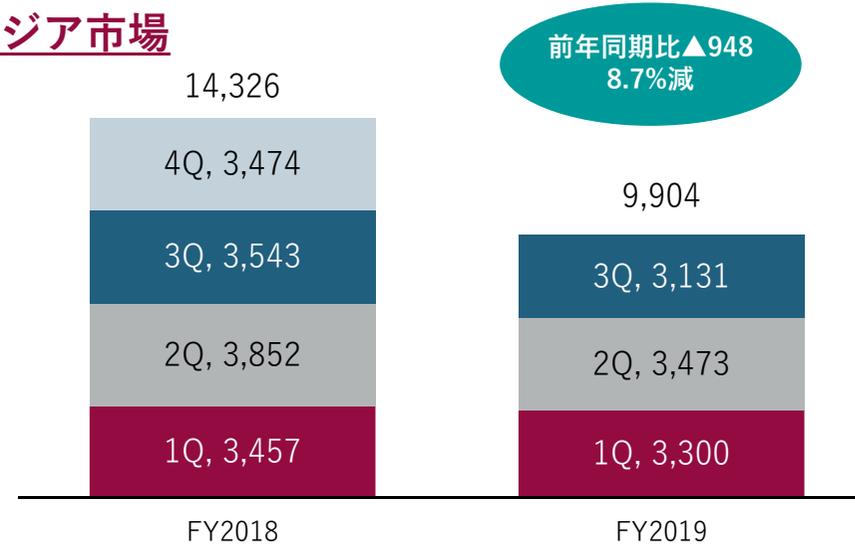
海外のお客様



セラミックボール



アジア市場





2. 2019年12月期 業績予想の修正について



2019年12月期業績予想の修正

マクロ経済の悪化及び今後の回復遅れ感により、売上収益及び利益の修正を行った。配当については当初計画値（年間配当81円/株）の変更は行わない

（百万円）

| | 当初 見通し | 修正後 | 増減額 | 増減比 |
|---------------------|-----------|--------|---------|--------|
| 売上収益 | 77,000 | 64,800 | ▲12,200 | ▲15.8% |
| 営業利益 | 11,700 | 8,600 | ▲3,100 | ▲26.5% |
| 税前利益 | 10,900 | 7,600 | ▲3,300 | ▲30.3% |
| 当期利益（※1） | 8,000 | 5,200 | ▲2,800 | ▲35.0% |
| 基本的1株当たり当期利益 （円） | 200.40 | 129.56 | ▲70.84 | ▲35.3% |

（※1）“当期利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期利益”を記載しております。

通期想定為替レートを1ドル109円（前回110円）、1ユーロ123円（前回130円）、1人民元15.9円（前回16.6円）に見直します。



免責事項

本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載（推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます）が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。